

平成24年山桜会新年会のご報告



平成24年新年会実行委員長
藤原 弘邦 (茨高24期)

1月28日(土) ウェスティンホテル大阪にて、252名の方々をお迎えし、無事執り行うことが出来ました。ご参集頂きました皆さまには、心よりお礼を申し上げます。プロローグでは、東日本大震災の復興を思い、司会者の方による朗読が行われ、ヴァイオリンの演奏に合わせ、山桜会会員が被災地に赴き写された写真映写。続いてヴァイオリンの独奏とスクリーンには追手門の歴史映像が映し出され、未来への光(希望)と追手門の未来とを重ね合わせ、新年の誓いと致しました。ここで、改めて司会者より、新年会開催の合図とともに、会長、ご来賓のご挨拶を頂き、鏡割り、乾杯。その後カラオケでの、各期毎の歌合戦、追手門学院ならではの幅広い年代の方々に出演頂き、和気あいあいとしたものに成ったと思います。また、ダンス甲子園全国大



会の決勝戦に出場した、高校生ダンスユニットの2人にも飛び入り参加で素晴らしい演技を披露して頂きました。(会報88号に掲載)その後、皆さまから沢山の協賛品を頂き、例年以上の品物で大抽選会を行い、多くの皆様に喜んで頂いたものと思います。終盤になり、「かたじけなくも…」「錦城の…」の大合唱と、無事新年会を終えることが出来ました。有難う御座いました。今後ともご支援・ご協力宜しく願い申し上げます。当日まで、準備にご協力頂きましたスタッフや、ホテルの関係者の方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。



よ も やま ばなし

卒業生

四方山話

萩原 正民 (借小53期)

大阪商工会議所入口に立つ三体の銅像の一人、第十代会頭の稲畑勝太郎(1862~1949)は、15歳でフランスに公費留学、最先端の染色技術を学んだ。日露戦争時には黒だった帝国陸軍の軍服がカーキ色に変わったのはこの稲畑の技術による。新大阪ホテルの建設時に、大阪商工会議所会頭であった稲畑は、天王寺区小橋町の邸の石灯籠を新大阪ホテルに寄贈、後に建築家巨匠 吉田五十八 先生の目に留まり、リーガロイヤルホテルに引き継がれた。宗伯爵家の姫を母とする孫の勝雄(借小49期)秀雄(51期)忠雄(53期)は揃って借行社に学び、忠雄は私の同級であった。稲畑産業は、現在も隆盛である。



夢をかなえた卒業生 劇団四季で活躍中の笠松はる (茨高48期)



「舞台好きの祖母に連れられて子供の頃から舞台を良く見ていました。5歳の時に舞台に出る人になりたいと言い出し、以降ずっとその夢を追いかけていました。高校3年生の時に『劇団四季ソング&ダンス』を観て、衝撃をうけ、四季に入りたいと強く思いました。その作品に出演されていた方の多くが、東京藝術大学の出身の方でしたので3年生の冬に志望校をいき



なり東京藝術大学に変更して、担任の吉村先生には本当に驚かれました。」その後、同大大学院を修了し、四季に入団。2007年、『ユタと不思議な仲間たち』で初舞台を踏み、『ウエストサイド物語』のマリア、『オペラ座の怪人』のクリスティーン、『赤毛のアン』のアン、『サウンド・オブ・ミュージック』でもマリアを演じ、美しいソプラノで観客を魅了している。夢に向かって頑張っている後輩たちへ「夢は信じて、努力したらきっと叶います」と語ってくれました。



【恩師からのコメント(蘭村栄子先生)】

「当時、体育授業で、クラス女子全員で行っていた創作ダンスの発表会では、笠松さんのリズム感としなやかな動きは抜群でした。」詳しくはホームページをご覧ください



詳しくは山桜会オフィシャルホームページへ